

和の光

宝塚市立西谷中学校



君は自分の峠を越えようとしているのか

校長 筒井 啓介

「私は、はっきり言って成績が悪い。理由は家に帰っても予習復習を全然しないからです。もちろんテスト勉強も本当のことをいうと全然していません。「どうして?」と聞かれても答えることができません。「やらなきゃいけないのに!!」と思っても体が動きません。ただの言い訳ですけど事実です。悔しいです。自分の我がままに自分自身が負けているのです。悔しいです。」

この文章は私が今から25年前に担任していた中3の女子生徒が進路アンケートに書いたものです。この生徒以外にも、親から「受験生なのだから勉強をなさい」と言われます。そんなことは自分でも分かっている。だけど、体が動かない。集中力が続かない。といった様な意見がたくさん目につきました。学校通信で今までに勉強の必要性について何度か取り上げてきたので、ここで細かなことを書かなくても皆さんは、既に承知のことだと思います。

ここで、詩人の真壁仁氏が書いた「峠」の中にある一節を紹介します。

「峠に立つとき 過ぎ来し道はなつかしく ひらける道は楽しい ひとつはそこで ひとつの世界にわかれねばならぬ」と記されています。峠に立つことによって、これまでに自分が歩んできた道を振り返ることができるし、未来に向かって自分の道を歩みだすことができると語られています。「峠」を登ることはとても大変なことです。中学卒業後の進路を考えていかなければならないこの時期を機会に、目標をしっかりと立てて「峠」を登り続け、「峠」を乗り越えて行くことはとても大切なことです。しんどいからと言って「峠」を登らなければ、いつまでも甘えた自分がいるだけです。自分の「峠」を登り切れたら、必ず爽快な気分になるでしょう。そして、自分を成長させてくれる新たな「峠」が見えてくるはずですよ。このように人間は幾多の「峠」を乗り越えながら成長し、生きていくのです。

今、君はどんな「峠」を持っているのか。
今、君は「峠」を登る姿が見えているか。
今、君は「峠」を越えようとしているか。

「峠」の向こうには君の道が拓けます。
希望と勇気を持って、第一歩を踏み出そう。
希望と勇気を持って、自分の殻を破ろう!!



■吹奏楽部の定期演奏会が盛大に開催されました（11月10日）

ごあいさつ

宝塚市立西谷中学校
校長 筒井 啓介

晩秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本日は、第17回宝塚市立西谷中学校吹奏楽部定期演奏会の開催に際して、多数の保護者・地域の皆様にご来場いただき、盛大に開催できますこと大変嬉しく思います。これも、日頃からの保護者・吹奏楽部の先輩、地域の皆様の本校吹奏楽部に対するご理解・ご支援の賜だと心よりお礼申し上げます。

私は昨年度本校に着任しましたが、その時吹奏楽部は3年生が1名、2年生が2名（現3年生 部長のAさん・副部長のBさん）の合計3名で部の存続が危ぶまれる状態でした。しかし、顧問の先生と3名の部員が心をつなげて、部員の勧誘に取り組みました。その甲斐もあって現在は12名という西谷中で最大の部員数を誇るに至りました。私は、そのような吹奏楽部の皆さんの姿に大変心を打たれました。

部員数が12名になり、演奏する楽器のパートも少し増え、曲に深みを感じることができるようになってきました。また、吹奏楽部の活動は校内に限らず、地域の行事や様々なコンクールに出演するようになりました。これも部員と顧問の吹奏楽にかける熱意の成果だと感じています。

今日の演奏会では、日々積み上げてきた練習の成果を発揮できるように頑張ります。また、3年生については今日の演奏会で引退となりますが、1・2年生が西谷中吹奏楽部のよき伝統を受け継ぎ、これからも保護者・吹奏楽部の先輩・地域の皆様に愛され、活躍する吹奏楽部であり続けるよう練習に励んでまいります。

それでは、会場におられる皆様に感謝の気持ちをこめて演奏しますので、西谷の豊かな秋、芸術の秋を感じながら、最後までごゆっくりとお楽しみください。





12名の部員が心を一つに演奏をしました



3年生の二人でセッションを披露しました



12名の部員が心を一つに演奏をしました



堂々とした姿で有終の美を飾りました